

令和元年度病害虫発生予察情報 予報第8号（9月）

令和元年9月27日
発表：福島県病害虫防除所

1 野菜・花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
夏秋トマト（被覆栽培）	灰色かび病	全域	－	やや少ない	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった（－）。	多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。
	葉かび病	全域	－	やや多い	発生ほ場割合は、平年よりやや高かった（＋）。	①多湿条件で発生が多くなるので、換気を十分に行う。 ②葉かび病抵抗性（cf-9）品種でも発病するレースが確認されているので注意する。
	ハモグリバエ類	全域	－	やや少ない	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった（－）。	①ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。 ②施設開口部をネット被覆していない場合、発生に特に注意すること。
	コナジラミ類	全域	－	やや少ない	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった（－）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
	オオタバコガ	全域	－	平年並	発生ほ場割合は、平年並だった（±）。	寄生や食害が見られたら早めに防除する。
野菜・花き共通	ハスモンヨトウ	全域	－	平年並	フェロモントラップの誘殺数は概ね平年並だった（±）。	生長点付近をよく観察し、寄生や被害が見られた場合は、速やかに防除を行う。

注) 予報の根拠の中で（＋）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病害虫

夏秋トマト（被覆栽培）	<p>■トマトすすかび病</p> <p>巡回調査ですすかび病の発生が確認されています。すすかび病は葉かび病と病徴が類似しており、肉眼での判別は困難です。これらの病害は、多湿条件下で発生が助長されるので、換気を十分に行うとともに防除を行ってください。また、薬剤防除を行う場合には、いずれの病害であるかを確認して薬剤を選択してください。</p>
-------------	---